

石貫穴観音横穴・石貫ナギノ横穴群



石貫穴観音横穴



石貫ナギノ横穴群



石貫穴観音横穴1~3号墓



石貫ナギノ横穴群6~10号墓

玉名市教育委員会

1. 遺跡の概要

石貫穴観音横穴及び石貫ナギノ横穴群は、菊池川支流の繁根木川右岸に所在する横穴墓群です。南北に細長い丘陵の西側崖面に石貫穴観音横穴が5基、東側崖面に石貫ナギノ横穴群が48基確認されています。横穴墓入口の飾縁には、赤などで文様が描かれており、内部の奥壁には穴観音横穴の千手観音をはじめ、ナギノ横穴群の大刀のレリーフなど多様な装飾が施されています。横穴墓としての規模・内容も優れており、玉名市が全国に誇る横穴墓です。

横穴墓を含めた装飾古墳については、大正時代に浜田耕作・梅原末治氏によって熊本県下の装飾古墳が調査され、その成果を本に、大正6年わが国の考古学史上の大きな期とされた、「肥後に於ける装飾ある古墳及び横穴」が京都帝国大学から刊行されました。それからしだいに注目を集めようになり、石貫穴観音横穴及び石貫ナギノ横穴群は大正10年3月に熊本県下のほか5ヶ所（井寺古墳・千金甲申古墳・千金甲乙古墳・釜尾古墳・大村横穴群）の装飾古墳と共に国の史跡に指定されました。それ以後々々と装飾古墳が指定されるようになり、日本国内の装飾古墳保護のパイオニアとなつた記念すべき史跡です。

2. 装飾古墳とは？

3世紀中ごろから7世紀中ごろ（約1700年～1300年前）にかけて、土を盛り上げた大きなお墓が全国各地に築かれました。これを古墳といい、この時代を古墳時代と呼んでいます。古墳時代の終わりごろ（6世紀から7世紀にかけて）には、岩などの崖面に穴を掘って遺体を安置する横穴墓が多く造られるようになりました。

これら古墳内部の石室や石棺、横穴墓の壁面などに文様や絵画が描かれたり、彫刻されたものを装飾古墳と呼んでいます。

装飾古墳にはさまざまな種類があり、地域ごとで多様な特色があります。装飾が施される場所は、古墳内に收められる石棺の表面や内側、石室の壁面、横穴墓入口の縁や内部の壁面などです。文様には、円文や三角文などの幾何学的图形と、人物や動植物などの形象的图形があり、赤などで鮮やかに彩色されたり、浮き彫りされるなど多彩な表現があります。

装飾には、当時の人々の死生觀が現れており、邪惡なものとの排除などの想いが込められていると考えられています。

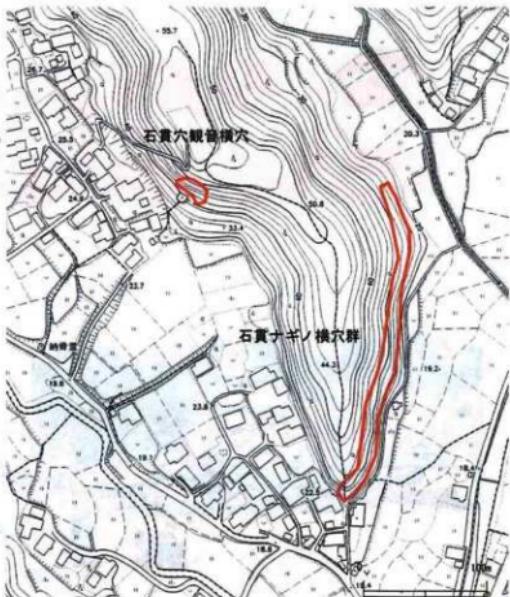
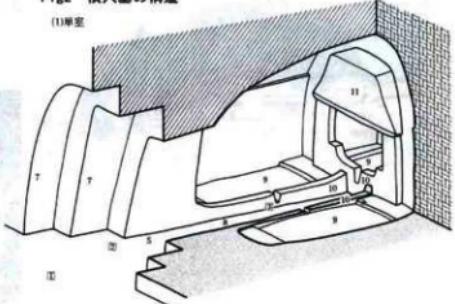


Fig1 石貫穴観音横穴・石貫ナギノ横穴群位置図

Fig2 横穴墓の構造

(1) 単室



1. 前庭部（ぜんていぶ） 横穴墓入口（表道前）の広場

2. 表道（せんどう） 横穴墓の外部から玄室に通じる道

3. 玄室（げんしつ）

横穴墓の主体となる屍体を安置する部屋。複室（部屋が2室）の横穴墓の場合、奥室・後室・主室と呼ぶこともある。

4. 前室（ぜんしつ） 複室（部屋が2室）の横穴墓の場合、入口側にある部屋。

5. 焼門（せんもん） 前室や玄室の入口。

6. 玄門（げんもん） 玄室の入口。第二焼門とも呼ぶ。

7. 飾縁（かざりぶち） 焼門の外に造られた階段状の飾り。

8. 通路（つうろ） 玄室や前室の中央部を貫く道。

9. 罂床（じょうじゆう） 屍体を収める所。

10. 仕切用途を区切る場の突堤。

11. 石星形（いしやかた） 玄室の奥罂床が星形に造られたもの。

3. 装飾古墳の発達と展開

装飾古墳がどうやって発生したのかは定かではありませんが、石棺に施された直弧文が始まりとされています。それから日本各地に広がり、それぞれの地で地域色を増しながら個性あふれる装飾古墳へと拡大発展してきました。

全国に装飾古墳は660基ほど確認されていますが、分布には地域的な偏りがあります。最も多く集中しているのが熊本県であり、現在196基が確認され、全国の約30%を占めています。さらにその熊本県の中でも菊池川流域は多くの装飾古墳が所在し、質、量ともに全国一の装飾古墳分布地です。

熊本県における装飾古墳の発達は、5世紀前半に位置づけられる県南部の八代市の古墳から始まり、天草や宇土半島へと分布域が拡大し、5世紀後半には熊本県北部、さらに6世紀に入ると菊池川流域に広がりました。装飾の内容も横穴式石室の奥に設けられた石屋形や横穴墓の飾縁及び内部に彩色されるなど、バリエーション豊かになっていきます。

玉名市を中心とした菊池川下流域では、6世紀代を中心に石貫穴觀音横穴、石貫ナギノ横穴群、大坊古墳、永安寺西・東古墳など代表的な装飾古墳が築かれました。石室内部や横穴墓の飾縁に円文、連続三角文が赤などで鮮やかに描かれているのがこの地域の特徴です。

石貫ナギノ横穴群が造営される時期は、須恵器などの遺物がなく特定は困難ですが、横穴墓内部の石屋形の形状などから6世紀初めから終わりごろにかけてと推定されています。石貫ナギノ横穴8号墓が古い段階、43号墓が新しい段階に位置付けられています。石貫穴觀音横穴も、2号墓の形態などから6世紀中ごろに位置付けられています。



Fig4 直弧文（上天草市長秒連古墳）

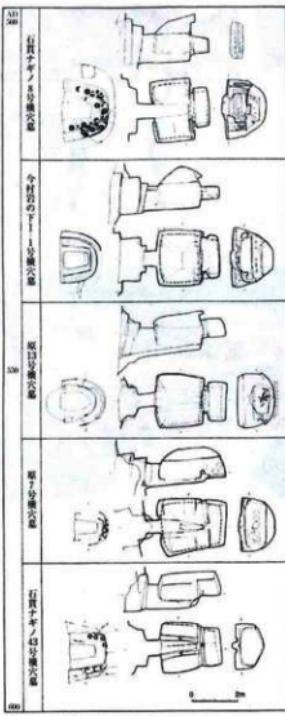


Fig3 菊池川下流域の装飾横穴墓の変遷



Fig5 菊池川下流域の主要な古墳・横穴墓の分布（赤は装飾古墳）

4.周辺の歴史的環境



石貫穴観音横穴と拝殿



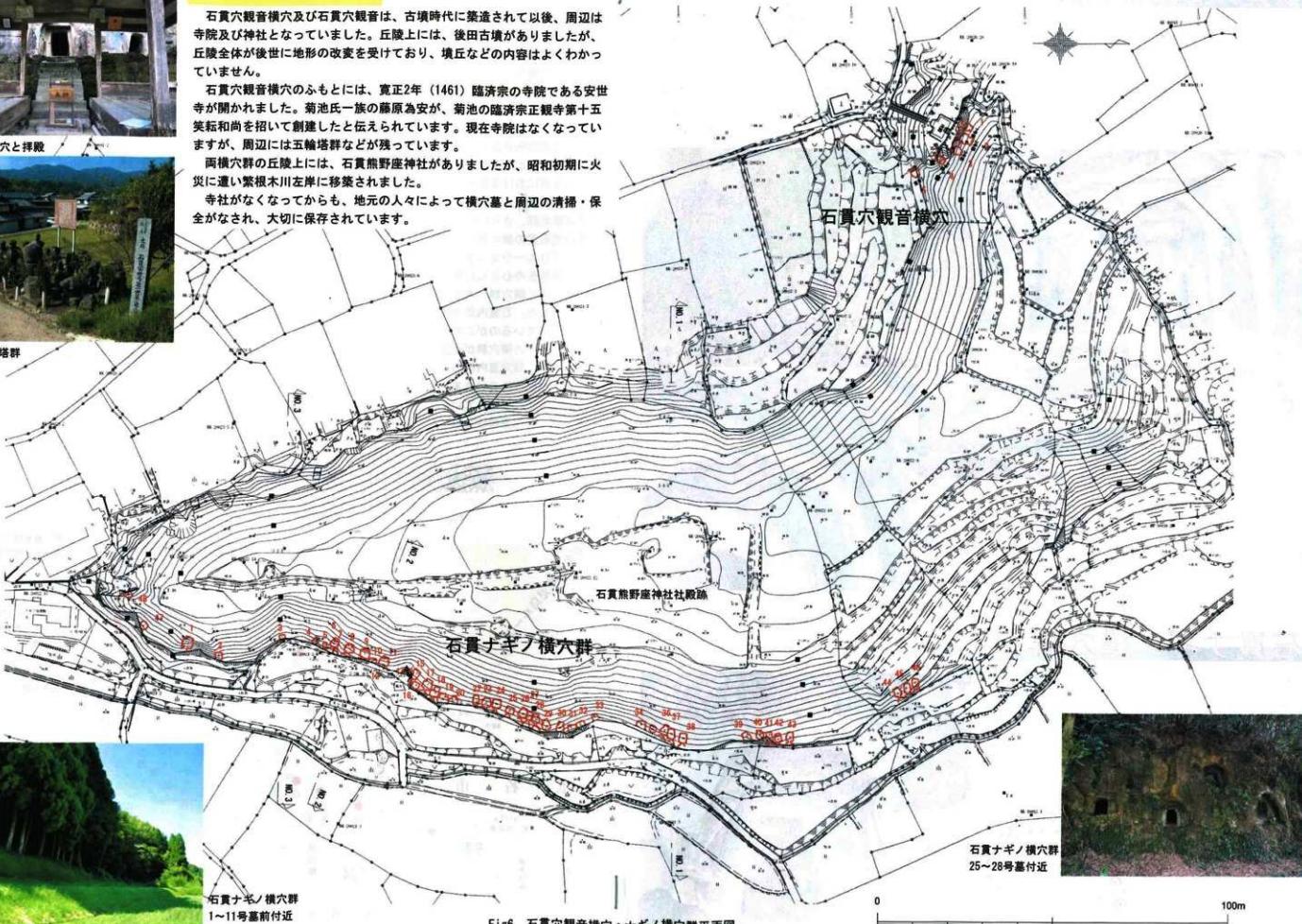
安世寺跡の石塔群

石貫穴観音横穴及び石貫穴観音は、古墳時代に築造されて以後、周辺は寺院及び神社となっていました。丘陵上には、後田古墳がありましたが、丘陵全体が後世に地形の改変を受けており、墳丘などの内容はよくわかつていません。

石貫穴観音横穴のふもとには、寛正2年（1461）臨済宗の寺院である安世寺が開かれました。菊池氏一族の藤原為安が、菊池の臨済宗正親寺第十五笑耘和尚を招いて創建したと伝えられています。現在寺院はなくなりていますが、周辺には五輪塔群などが残っています。

両横穴群の丘陵上には、石貫熊野座神社がありました。昭和初期に火災に遭い紫根本川左岸に移築されました。

寺社がなくなつてからも、地元の人々によって横穴墓と周辺の清掃・保全がなされ、大切に保存されています。



石貫穴観音横穴群

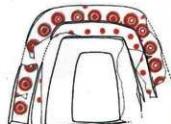
繁根木川右岸の丘陵西側に所在し、3基が並んで築かれ、やや離れて1基、さらに下方に1基の5基が確認されています。西側から1号墓とされ、並んで1~3号墓に装飾があります。1号墓は飾線に赤と白の円文、2号墓は飾線に赤の円文と内部奥壁に千手觀音像、3号墓は赤の色彩が施されています。2号墓が位置的、構成的に中心を成し、規模も大きく、飾線の幅約2.6m、高さ約2.3m。入口から玄室の奥壁まで約3.7mを測ります。屍床上部の底には軒丸瓦状の円形突起が設けられていることも特徴です。横穴墓の形態などから6世紀中ごろの築造と考えられており、千手觀音像に関しては、説説があり年代特定は困難な状況ですが、作風などから平安時代ごろの作と推定されています。横穴正面には拝殿が設置され、古くから信仰の対象となっています。



石貫ナギノ横穴群

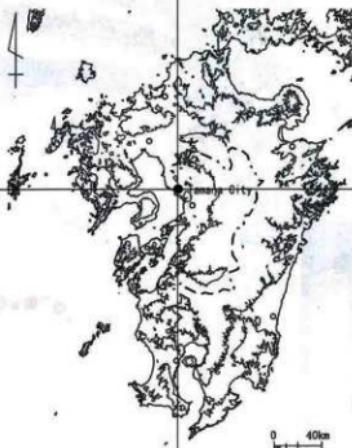
繁根木川右岸の丘陵東側に所在し、凝灰岩の崖面に南北約250mにわたって48基の横穴が確認されています。横穴群は位置などでいくつのがグループに区分され、部分的に崩落しているところもあることから、埋没しているものも多いと推定されます。横穴群の中でも6号墓と8号墓の色彩が最も保存状態が良く、飾線に同心円文などが描かれています。また、8号墓内部の石屋形には同心円文と連続三角文が線刻され、石屋形と側壁の間に大刀が浮き彫りされているなど、多様な装飾があります。

6号墓と装飾



玉名市

Tamana city



【遺跡データ】

名称：石貫穴観音横穴（いしぬきあながんのんよこあな）

種別：史跡

所在地：熊本県玉名市石貫字安世寺 2387

指定年月日：大正 10 年 3 月 3 日

名称：石貫ナギノ横穴群（いしぬきなぎのよこあなぐん）

種別：史跡

所在地：熊本県玉名市石貫字柳野原 2386

指定年月日：大正 10 年 3 月 3 日

【交通アクセス】

車で：九州自動車道菊水 I.C. でおり県道
16号線、市道青木小岱線（広域農道）、
県道4号線経由で約15分

列車・バスで：JR玉名駅下車、九州産交バス
南閣上町行で虎取下車、徒歩約2分

1. この資料を作成するにあたっては、以下の図書等を参考にしました。

- ※1 高木正文編 1984『熊本県装飾古墳総合調査報告書』
熊本県文化財調査報告書第68集
- ※2 白石太一郎ほか 1999『国立歴史民俗博物館報告第80集
装飾古墳の世界』

※3 『熊本県立装飾古墳館ガイドブック』（館内パンフレット）

2. 採図の出典に関しては、Fig2と各横穴墓の実測図は上記の
※1、Fig3とFig4は※2から転載しました。Fig1、Fig5、Fig6は
玉名市教育委員会で作成しました。

3. 本書に掲載した写真的著作権は玉名市教育委員会に帰属します。二次利用に関しては、出所を明示した上で利用できます。

〈編集・製作〉

玉名市教育委員会

文化課文化財係（平成23年2月作成）

熊本県玉名市岱明町野口2129

TEL:0968-57-4429 FAX:0968-57-4442

玉名市HP:<http://www.city.tamana.lg.jp/>